

ルチアめる

特集 認知症

特別鼎談

久留米市認知症初期集中支援チーム



作業療法課のみなさん

- 聖ルチア会の認知症治療と在宅支援サービス
- FOCUS／ストレス予防の食事法
- 聖ルチア病院のプロフェッショナル「作業療法課」

認知症になっても、誰もが住み慣れた場所で 自分らしく生きられる久留米市を目指して



一般社団法人くまめ地域支援センター
久留米中央地域包括支援センター
管理者 稲田 臣治 さん

社会医療法人聖ルチア会
法人事務局 経営企画
課長 平田 智也

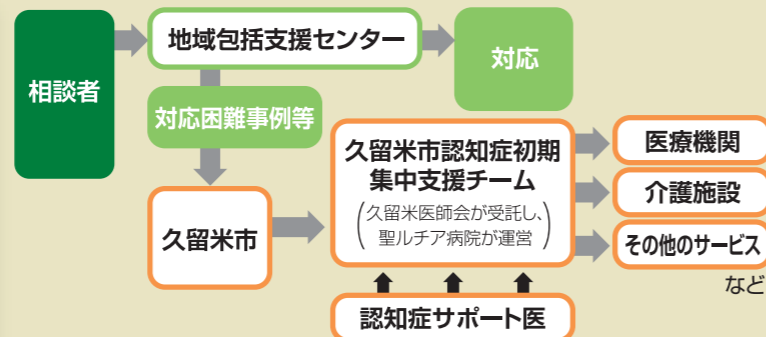
聖ルチア病院 久留米市認知症
初期集中支援チーム専従担当
社会福祉士 森川 愛子

認知症初期集中 支援チーム

認知症になっても住み慣れた地域で暮らし続けるために、早期診断・早期対応に向けて支援するチーム。2018年度から、全市町村に設置が義務付けられています。

久留米市では…

高齢者の介護や福祉の相談窓口は、地域包括支援センター（総合相談）です。認知症に関するもので、地域包括支援センターでは対応に苦慮する事例を「久留米市認知症初期集中支援チーム」（久留米医師会が受託し、聖ルチア病院が運営）が支援し、医療や介護、その他のサービスなどにつなげています。



対応困難事例を認知症初期集中支援チームが支援

稲田 私たち一般社団法人くまめ地域支援センターは、久留米市から地域包括支援センターの運営業務を受託して活動しています。久留米市内の地域包括支援センターでは、年間5,000件以上の総合相談を受けています。その中で、認知症に関することで私たちだけでは対応が難しいケースを、久留米市に相談し、「久留米市認知症初期集中支援チーム」に支援してもらっています。

平田 聖ルチア病院は、同チームの開始当時から久留米医師会を通じて事業を受託しています。国が地域包括

ケアシステムの構築によって目指している「誰もが住み慣れた地域で自分らしく生きる社会」のために必要な事業だと考えたからです。具体的には、当院の社会福祉士（森川）が中心となり、ご本人や家族、生活の状況に合わせて、必要な医療、介護、その他のサービスにつなげます。院内の多職種や、地域の医療・介護施設とも連携して、対象者にとって最も良い支援を目指しています。2016年10月からの4年半で、60人の支援実績があります。累計での訪問回数は700回以上、電話も約500回にのぼります。

蓄積したノウハウを地域全体の力に還元する

森川 「認知症初期集中支援チーム」の「初期」には、認知症の病状の「初期」と、医療・介護サービスにつなげる過程の「初期」の2つの意味があります。久留米市の現状は、前者の場合は地域包括支援センターできちんと支援でき、対応できるかかりつけ医の先生も多いです。そのため、同チームで関わる対象者は、病状が重度の方や経済的な問題を抱えているなど、様々な問題が重なっているケースがほとんどで、6カ月間集中的に支援しています。当院には認知症治療病棟があり、医療的な支援は得意ですが、権利擁護の分野などは地域包括支援センターの方が経験と知識が豊富なので、アドバイスをもらいながら、対象者にとって一番良い方法を探っています。

実は、同チームの取り組み開始前から、当院の社会福

祉士が地域包括支援センターに出向しており、私も平田も出向経験者です。実際に地域の現場に出てみて、地域包括ケアシステムの構築には在宅での支援が重要だと痛感しました。当時は「これでよかったのかな」と悩むケースもあったので、この事業でより専門的に解決策を追求する機会ができ、とてもうれしくやろいがあります。

稲田 同チームで各対象者の問題を解決することはもちろんですが、事例から見えてくる共通の課題について、地域の方や関係機関と一緒に考えることで「認知症になっても住みやすい地域づくり」につながると考えます。地域包括支援センターでは、地域の方や関係機関と共に、認知症の正しい理解を広める活動や、早期相談・支援の必要性、地域でできる見守り等について検討しています。

チームの事業が「地域の健康と幸福の増進」につながる

森川 本来この事業の目的は、在宅生活の支援ですが、病状が重い方や、周囲の支援が得られず入院治療になる方も多くいます。特に難しいと感じるのが、ご本人やご家族が認知症であることを受け入れられず、医療・介護に抵抗を示されるケースです。より多くの方が住み慣れた場所で自分らしく暮らすために、家族へのアプローチなどもっと追求したいです。

稲田 久留米市は東西に長く、私の管轄する中央エリアから、東の田主丸町や西の城島町までは移動に時間がかかります。現在は聖ルチア病院さんが市内全ての案件に対応していますが、同院が中央エリアにあるから

か、同チームの支援対象者も中央エリアの方が多のが現状です。東と西にもそれぞれチームをつくることできれば、より多くの案件を対象者に近い場所で解決でき、「認知症になっても住みやすい地域づくり」につながるのではないかと考えます。

平田 今年、病院理念に「地域の健康と幸福の増進に貢献します」という一文を加えました。久留米市認知症初期集中支援チームでの活動は、まさにこの理念を実現するための、重要な事業のひとつです。この取り組みを通して、当院の社会的責任を果たしていきたいです。

久留米市よりメッセージ

久留米市の認知症初期集中支援チームは、本人の介入拒否や家族の理解不足などの処遇困難な事例への対応が多いなか、迅速で効果的な支援を行ってきており、大治太郎病院長をはじめとした支援チームの皆様、そして地域包括支援センターの皆様には大変感謝しております。今後とも、更なる質の向上に向けて、一緒に取り組んでまいりましょう。

認知症は誰もがなりうるので、久留米市では、認知症になってもならなくても安心して暮らせるまちを目指しています。認知症についての正しい理解をより一層深めていくとともに、地域全体で認知症の人とその家族を支えていくことが必要だと考えておりますので、皆様方のご協力を引き続きよろしくお願いいたします。

久留米市 健康福祉部長寿支援課 課長補佐 古賀信夫 さん



認知症治療と在宅支援サービス

聖ルチア病院は「認知症治療病棟」で、認知症に関する専門的な治療やリハビリを実施しています。さらに、「重度認知症患者デイケアすずらん」や「訪問看護ステーションクローバー」では、在宅生活を支援しています。聖ルチア会の認知症についての治療や取り組みをご紹介します。



理事長・病院長 大治 太郎

認知症治療のテーマは『快』

聖ルチア会が認知症治療のテーマに掲げているのは『快』の感情です。認知症になり意思疎通が難しくなっても、患者様の快・不快を感じる心は残っています。不快の原因を取り除き、楽しく幸せな状態をつくるのが、スムーズな治療や介護負担の軽減にもつながります。当院では、患者様が『快』を感じる治療やリハビリを実施しています。

診断と治療

認知症は、脳神経細胞に老廃物が蓄積したり、脳血管障害により脳神経細胞が死滅していくために、認知機能が低下する病気です。また、認知症の症状に見えても実際は精神疾患ということもあります。適切な治療のためには、まず正確な診断が重要です。

認知症の症状は『中核症状』と『行動・心理症状(BPSD)』に分けられます。『中核症状(記憶障害や失語など)』は進行性のため、機能を維持する治療が中心になります。一方で、『行動・心理症状(徘徊、妄想、暴言・暴力など)』は、生活環境や対人関係の改善、作業療法、適切な投薬などの治療で改善することができます。当院には、『行動・心理症状』が重い患者様が多く来ますが、ほとんどの方は2週間～1カ月で症状が落ち着きます。

リハビリ



認知症治療病棟では、作業療法士が病棟に常駐し、患者様のADL(日常生活での動作)に関わりながら集団でのリハビリ(机上作業、運動、回想法、音楽療法など)を行います。患者様は自分でできることが減るストレスを感じているので、楽しくて自信を取り戻せるリハビリを実施しています。心身機能に加えて、生活のリズムや社会性を取り戻すことも目的にしています。退院後に再度悪化しないよう、退院後の生活に関するアドバイスもします。

認知症治療病棟 専従作業療法士 宮本 佳代子

在宅支援 (重度認知症患者デイケアすずらん)

すずらんは、専門職が治療とリハビリ(認知機能と身体機能)を行う通所施設です。特徴的なのは、作業療法士による足リハビリや、音楽療法士による回想法+音楽療法です。歌謡曲や童謡を歌いながら当時の回想を繰り返すことで、楽しく認知機能の維持を図り、行動・心理症状を緩和します。また、週の数日でも自宅や施設から離れて過ごすことで、ご家族や施設職員の負担軽減にも繋がります。医療保険適用なので、介護保険と比べて自己負担額が軽減される場合もあり、介護保険サービスとの併用もできます。入院前や退院後の短期利用も可能です。

社会復帰施設施設長・重度認知症患者デイケアすずらん 所属長 山本 真人



SPECIAL TEAM 5

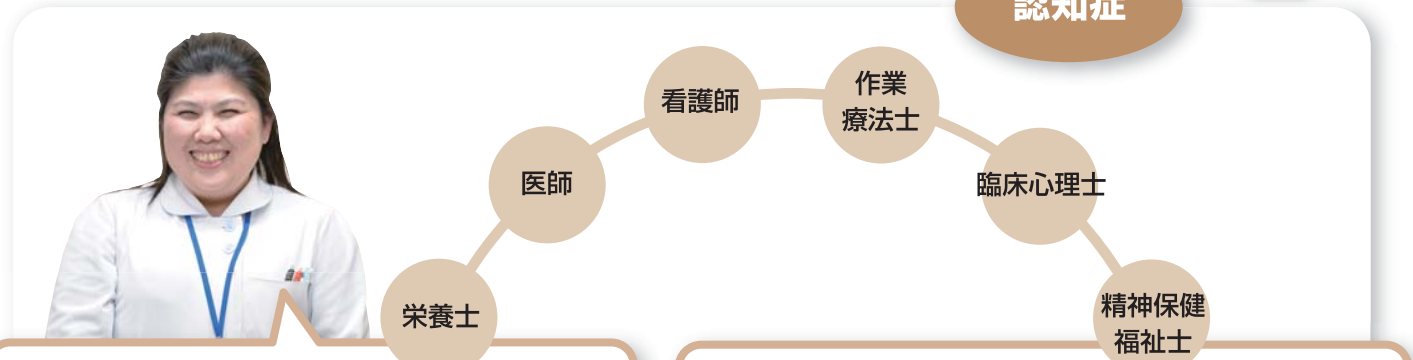
スペシャルチーム ファイブ

vol.1 認知症チーム

聖ルチア会では、20年度から「統合失調症」「うつ病」「認知症」「児童思春期」「依存症」の5つの分野について、多職種で編成した専門チームをつくりました。それぞれの分野で最新の治療や社会復帰への支援を追求し、専門性を高めています。今回は、「認知症チーム」についてご紹介します。



認知症

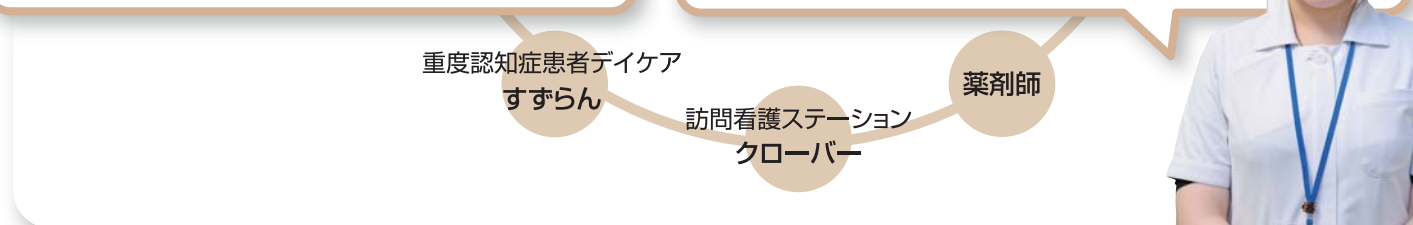


認知症患者様は高齢者がほとんどなので、飲み込む力の低下や食事量の減少による栄養不足をどう解決するかがポイントです。また、退院後はご家族の協力が必要なので、家族セミナーで、ご家庭での食事のアドバイスもしています。多職種で連携しながら認知症患者様の栄養管理に努めています。

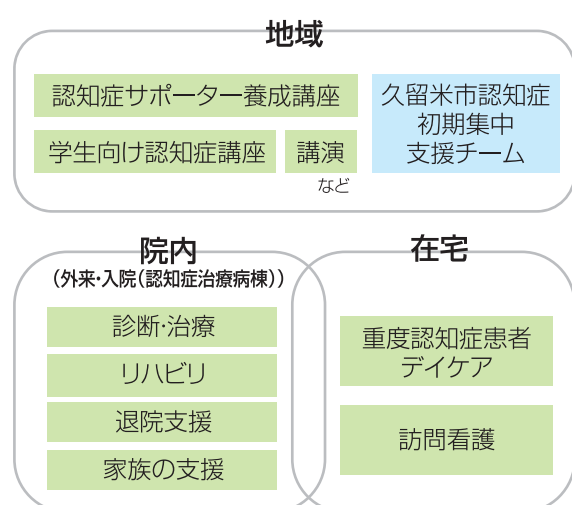
栄養士 佐藤 明樹

精神保健福祉士はご家族と話す機会が多いので、チームとご家族をつなぐ役割を果たすために、ご家族の視点を他職種に伝えています。認知症の進行などで意思表示できない患者様には、ご家族のお話から性格などを理解して、多職種間で情報共有し入院生活や退院支援に活かしています。認知症治療病棟を6年間担当しているの、その経験をチームに役立てたいです。

精神保健福祉士 宝満 紀子



聖ルチア会の認知症への取り組み



回想法に注力しています!

認知症チームで今最も注力しているのが「回想法」です。回想法は様々な切り口で過去のことを思い出して話すことで、認知機能に働きかける治療法です。当院では以前から回想法を取り入れていたのですが、チームができたことで回想法を実施できる職員が増え、より多くの患者様に体験してもらえるようになりました。内容も、多職種で意見を出しあい充実させています。患者様に喜ばれ、効果にも手応えを感じているので、さらなるレベルアップをめざします。

認知症チームリーダー 看護師 中山 暁文



今最も注目の情報にフォーカス!

FOCUS

春は新生活のスタートでストレスを感じやすく、5月病でゆううつな気持ちの方も増える季節です。そんなときに、食事でストレス予防ができることを知っていますか?今回は、かんたんに実践できる工夫をご紹介します。当院のうつ病患者様への栄養指導でも実際にお伝えしているポイントです。ぜひ実践してみてください!

今回のテーマ

ストレス予防の食事法



ストレス予防の食事のポイント

① 1日3食、よく噛んで食べる。特に **朝食** が大切!

② **たまご** **乳製品** **大豆製品** をとり入れる

心を安定させる脳内物質「セロトニン」をつくるための栄養がたくさん含まれています

できることからはじめてみよう

朝食がパンとコーヒーなら

どれか1つでもOK!

- ・コーヒーを牛乳に変えてみる
- ・チーズをのせてチーズトーストにする
- ・ヨーグルトをつける

ごはん派の人は

たまごかけごはんにする

納豆ごはんにする

おみそ汁をプラスする

野菜もたくさん食べられるので **より効果UP!**

救世主はバナナ!!

忙しくて食事をとれない…

食事をつくる余裕がない…

そんなときの救世主 **バナナ!**

バナナは心の安定につながる栄養素を含み、栄養価の高い食材!手軽に食べることができる

バナナを上手く利用しましょう!!

特に朝食を食べることで元気スイッチがオンになります。毎日のことなので続けることが大切です。簡単にできることからはじめてみましょう!

聖ルチア病院 栄養課課長 管理栄養士 池田 順子

実際の栄養指導でもお伝えしているポイントです。

聖ルチア病院を共に支えてくれるひと

Vol. 1 株式会社にしけい

警備員 佐藤さん

聖ルチア病院では「患者様の人権を尊重する」の基本方針のもと、1983年から全病棟を「開放病棟」にしています。入院患者様や面会者は自由に出入りできますが、1人で外に出ると危険な患者様も多くいます。そこで、各病棟につながる南館の出入り口で、患者様と病院の安全を守っているのが、株式会社にしけいの警備員、佐藤さんです。

○佐藤さんの仕事内容

佐藤さんは、南館の出入口で、出入りする人に対応しています。業者の方や面会者に、名簿の記入や、新型コロナウイルス対策の手指消毒などを促し、荷物の搬入があるときには障害物を動かすなど、スムーズな出入りのお手伝いもします。

また、一人で外に出ると危険な入院患者様をあらかじめ把握して、その方が外に出られるときには優しく声をかけ、病棟に連絡して対応します。当院が『患者様の人権』と『安全』の両方を守る上で、なくてはならないお仕事です。屋外の寒さ暑さも厳しい中で、毎日当院を守っていただき、感謝しています。



株式会社にしけい

株式会社にしけいさんは、福岡市に本社を置く警備会社。当院では、セキュリティシステムの導入と、人(警備員さん)による施設警備をお願いしています。

会社情報
〒830-0003 久留米市東櫛原町700-1 (久留米支社)
TEL 0942-46-9322
URL <https://www.nishikeinet.co.jp>

INFORMATION

インフォメーション

抗うつ薬で治らない方に新・うつ治療「rTMS療法」

うつ病の治療には抗うつ薬が主流となっていますが「薬が効かない」「副作用で薬が飲めない」という方もいます。

「rTMS療法」は、うつ病によって脳の機能が損なわれている部分を刺激し、脳の機能を回復することで、うつ病を治療する方法です。ご希望の方は担当スタッフにご相談ください。



詳しくはホームページをご覧ください▶▶▶



対象: 18歳以上、中等度以上のうつ、抗うつ薬で効果がない方
rTMS外来: 毎週火・木曜日 午前
担当: 山口、久保

アルコール依存症治療プログラムのご案内

当院では依存症専門チームによる「アルコール依存症治療プログラム」を実施しています。お酒の問題だけでなく、依存の原因となっている、心配事や生活上の不安なども、プログラムに参加している患者様やチームスタッフと共有し、一緒に考えて回復を目指すプログラムです。参加ご希望の方は、病院スタッフにご相談ください。



医師・専門スタッフによる治療プログラムの様子

対象: アルコール依存症の患者様(原則、入院治療)
実施日: 毎週火・木曜日 午後
担当: 森、原野

お問い合わせ 聖ルチア病院 0942-33-1581

作業療法は、作業活動を通して、心と体を元気にするリハビリテーションです。スポーツや園芸、手芸などの作業活動に加えて、患者様が自分の病気に対する知識や病気との付き合い方などを学ぶ「疾患別心理教育プログラム」の実施も私たちの仕事です。

患者様自身が主体的に取り組んでいただけるように、楽しく元気になる活動を取り入れています。また、患者様が退院後も自分らしく地域で生活できるように、買い物訓練や調理訓練など、退院後の生活をイメージした個別の支援も行っています。

作業療法プログラム

AM 各病棟での集団活動

病棟ごとに病状や年齢が異なるため、特性にあったプログラムを実施

PM 多様なプログラムから患者様自身が自由に選択することもできます

例) 運動、音楽療法、書道・ペン習字、茶道、ビーズ制作、革細工 など…

▼高齢者向けのリクリエーション活動。体をつかったゲームなど楽しめる場をつくっています。



▼「革細工」の作業を通して、物を創る喜びを感じたり、対人交流の場にもなっています。

連携先の皆さまへのメッセージ

患者様が退院後に、それぞれに合った生活やお仕事ができるように、私たち作業療法士も、作業所や施設に訪問させて頂いています。どうぞ宜しくお願い致します。

作業療法課課長 秋山 綾子



《対象疾患例》

- 統合失調症
- 気分障害 (うつ病)
- 認知症 関連疾患
- 児童思春期 発達障がい
- 依存症 (アルコール・薬物)
- 周産期のメンタルヘルス
- てんかん
- 摂食障害

《診療時間》

| | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 | 日・祝 |
|-----------------------------------|---|--------------|---|--------------|---|---|-----|
| 9:00~12:30 (受付時間 8:30~12:00) | ○ | ○ rTMS 外来 | ○ | ○ rTMS 外来 | ○ | ○ | × |
| 14:00~17:00 (受付時間 13:00~16:00) | ○ | ○ | ○ | × | ○ | × | × |

早期介入による重症化予防で社会復帰を支援します

精神的な問題は、症状が軽い初期の段階で適切な対応や治療をすることで、重症化を防げることがあります。貴院の患者様に心配なことがあるときには、お気軽にご相談ください。共に患者様に寄り添い支援させていただきます。



社会医療法人 聖ルチア会
聖ルチア病院
St. Lucia's Hospital

〒830-0047 福岡県久留米市津福本町1012
TEL 0942-33-1581 (代表)
FAX 0942-33-1586

関連施設

- ・精神科デイケア、デイナイトケア、ショートケア
- ・重度認知症患者デイケア すずらん
- ・訪問看護ステーション クローバー
- ・訪問看護ステーション クローバー おおき
- ・グループホーム ルピナス

